

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立若葉小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の生命を尊重する心、他者への思いやりを育て、いじめが起りにくい集団づくりに継続して取り組み、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。</li> <li>・積極的に児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行い、学校・家庭・地域と連携して、児童の自己肯定感を高めていく。</li> <li>・令和3年度はタブレット端末を活用した授業を手探りながらも始めている。令和4年度は「1人1台端末を活用した授業改善研究」の指定を受けたので、先進的な取組を参考にしながらあらゆる可能性を目指した指導の工夫を推進して、授業公開に臨む。</li> <li>・令和4年度は、令和3年度より特別支援学級は2クラス減になるが在籍児童は3人減で人数はほぼ変わらない。1クラスあたりの人数が増えることになるので、特別支援学級や通常学級、管理職等の連携をさらに深めていく。</li> </ul>
2 学校教育目標	<b>「美しい心もち 自分で考え やりぬく子」の育成</b> ～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子 ～

3 本年度の重点目標	① 若葉授業（共通の指導・実践）と家庭学習習慣の定着による確かな学びの積み上げ ② 心の教育（道徳・人権・同和教育、UD教育、学級活動）による自己有用感の高まりと豊かな心の育成 ③ 出番・役割の設定→承認・称賛と共通の指導による規範意識・判断力、主体的な態度の育成 ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた新しい学校での生活様式の定着
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価		
								評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして、全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・主体的・多面的に学ぶ力を伸ばすために、授業の中で児童相互に主体的対話的に関わりあう「友達タイム」を活用する。 ・スキルタイムでは、基礎・基本を中心に適時各学年で吟味し、高学年では活用力に関わる問題にも取り組ませる。 ・校内研究でユニバーサルデザインの視点に基づいた学習環境・授業づくりを目指す。	A	・全教職員の共通理解のもと、若葉授業の柱である「友達タイム」「振り返り」を様々な場面で設定し、若葉授業の学習スタイルの定着を図っている。 ・各教科・各単元の学びに応じて、様々な形態で「友達タイム」を取り入れ、児童の主体的・対話的な学びの手立てとして取り入れている。 ・スキルタイムでは、視写を中心に書く活動に取り組んでいる。約93%の児童が読む力・書く力が高まったと感じている。 ・全員参加での授業参観、及び研究協議会を2回行うことができた。ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業作りについて研究を深めている。	A	・「若葉授業」「学習の約束」「スキルタイム」「ユニバーサルデザイン」に継続的に取り組んだ教師はほぼ100%であった。 ・全国学力学習状況調査や佐賀県学力調査の結果は概ね県平均を上回るかもしくは県平均並みの結果となり、おおむね目標を達成できた。 ・全員参加での授業参観、及び研究協議会を3回行うことができた。視覚化・焦点化・共有化といったユニバーサルデザインの視点に基づいた授業作りについて職員間で共有ができ、研究が深まった。	A	・評価は妥当である。 ・家庭学習調査や児童・保護者アンケートからも児童が前向きに学習に取り組んでいる様子や家庭が協力的などが分かる。 ・全国学力学習状況調査や佐賀県学力学習状況調査の結果は概ね達成できているので、課題についてはしっかり取り組んでもらいたい。 ・図書館室利用を促進してほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○タブレット端末等を使った授業実践による学力の定着	○タブレット端末を効果的に授業で活用している教師90%以上を目指す。	・タブレット端末を効果的に活用した授業づくりに取り組み、研究授業や公開授業を行っていく。	A	・公開授業を2回開催し、外部からの参観者、本校教職員全員参加での授業参観、及び研究協議会を行い、タブレット端末を活用した授業作りについて研究が深まっている。	A	・公開授業は合計3回開催した。3回目は国語科以外の教科や特別支援学級などを含め、7クラスで行った。校内研究での授業も含めると、通常学級に関しては全員がタブレット端末を活用した授業を行うことができた。	A	・評価は妥当である。 ・メリットとデメリットを考慮場面に即した効果的な活用をしてほしい。 ・情報モラルの指導もしてほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 ○相手が嬉しい、心地良いと感じる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。	・道徳の授業の終末に振り返りを行い、実践につなげる。 ・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に自他の良さを見つけ承認、称賛する。学校内だけでなく、地域や家庭にも参加してもらう。 ・「ふあふあ言葉」をクラス毎に考え意識して使っていく。	A	・2学期の授業参観で、8クラスが道徳の授業を公開した。3学期の授業参観では4クラスが授業公開する予定である。 ・児童の自己肯定感が上がるよう、今年度は自分自身の良さを称賛する「ほめほめカード」の回数を増やした。 ・各クラスで学期毎に、使いたい「ふわふわ言葉」を決め、積極的に使うよう意識付けを行っている。	A	・道徳の授業の終末の振り返りは、ワークシートの記入や発表により実践できた。道徳の時間で考えたことを生活の中でも気を付けようとする児童は90%以上であった。 ・全クラスでふれあい道徳を実施することができた。また、学級通信などを通して、道徳教育についての理解や啓発を行うことができた。 ・年間を通して「ほめほめカード」に取り組んだことで、自他の良さを確認することができた。学校評価アンケートでも、90%以上の児童が、称賛されることに喜びを感じている。 ・思いやりや励ましの「ふわふわ言葉」をクラス毎に話し合っ決めて決めたことで、全クラス90%以上が進んで使ったと感じており、意識付けができていく。	A	・評価は妥当である。 ・道徳で学んだことを家庭でも保護者と話し合うことが多くなってほしい。そういう意味で授業参観で道徳の授業を行ったことはよい。また、学級通信などでも紹介してほしい。 ・「ほめほめカード」は、子どもの自己肯定感を高めるのにもよい取り組みである。これからの取組を継続してほしい。地域においても機会があれば積極的に褒めていきたい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめは絶対に許さないという児童の意識、いじめが起りにくい集団づくりに取り組み、教職員アンケート、保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であてはまると答えた割合が90%以上。	・Q-Uを年2回実施し、その結果をよりよい集団づくりに意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ・いのちを考える日」に、児童は毎月、保護者は学期毎にアンケートを行い、個人の悩みやいじめの早期発見・対応を学校全体で取り組む。	A	・Q-Uは今年度も2回実施し、クラス毎に分析を行い、学級経営に生かしている。 ・毎月児童にアンケートをとり、保護者へも1・2学期にアンケートをとった。書かれていた内容についてはすぐに聞き取りを行い、いじめの早期発見・早期対応に努めている。 ・毎週水曜日の職員連絡会の折に児童についての情報交換を行い、小さな変化も見逃さず共有するようにしている。	A	・Q-Uを実施並びに分析を行って学級経営の見直しを行った結果、学級の支持的風土が醸成され、特に「要支援群」の児童に対する支援が手厚くなった。 ・「いじめ・いのちを考える日」を活用して、いじめの加害者、被害者、傍観者について考えをもち、いじめは絶対に許さないという意識の高まりが見られた。 ・定期的な生徒指導に関する情報交換を行い、生徒指導上の諸問題を全職員で共有することができた。	A	・評価は妥当である。 ・いじめの早期発見及び早期対応も大切であるが、いじめが起きないような支持的な風土を学級や学校で作ることが大切であり、いじめにつながりそうなトラブルが発生したときは子供たちによ話し合せて解決してほしい。これからの子供たちの小さな変化を見逃さないようにしてほしい。	生徒指導
	◎志を高める教育	○「学校目標」達成に向けて、自分の考えをもち、実践・振り返りを行っていることと答えた児童の割合が80%以上。 ○自分のめあてを設定し、意識して努力しようとする児童を80%以上にする。	・小中一貫で統一した「マナー教室」の中で全児童に学校目標達成に向けた自分の考えを発表させる。 ・キャリアパスポートを活用して個人のめあてを設定し、めあての達成に向けて、実践内容を学期毎に見直す。	・マナー教室では、学校教育目標に対して自分なりに頑張っていることをしっかりと話すことができた。 ・クラスによって振り返りの形式は違うが、個人のめあてに対する達成度を振り返る機会を設け、努力して自分自身を高めていこうとする意欲付けを行っている。 ・年度当初にキャリアパスポートの意義を児童と共有し、めあて達成に向けて、自分がどんな実践をしたかを見直す機会にしている。	B	・マナー教室では、学校教育目標に対して自分なりに頑張っていることをしっかりと話すことができた。 ・クラスによって振り返りの形式は違うが、個人のめあてに対する達成度を振り返る機会を設け、努力して自分自身を高めていこうとする意欲付けを行っている。 ・年度当初にキャリアパスポートの意義を児童と共有し、めあて達成に向けて、自分がどんな実践をしたかを見直す機会にしている。	A	・今年度マナー教室の様子をリモートで視聴したことで、友達の様子を知ることができ、クラス全体でマナーについて考え、礼儀正しくしようという気持ちが高まった。アンケートでも90%以上の児童がマナーに気を付けていると答えている。 ・めあてに対する振り返りを折りに付け行うことで、達成できていることと課題に気付き、自分を高めていこうとする意欲付けになっている。	A	・評価は妥当である。 ・「マナー教室」はよい取り組みである。手本となる友達のマナーを参考にして皆が礼儀正しい子どもになってくれればと思う。 ・職員室を訪れていた低学年の子どもが挨拶の仕方がとても上手だった。マナー教室の成果だと思う。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間を増やすために、休み時間等で外遊びをする児童を80%以上にする。	・体育委員会が「クラスマッチ」を企画することで、運動をする機会を増やし、より参加人数を増やす。 ・学級で「元気タイム」を設定したり、晴れの日に外遊びの声をかけをしたりすることで運動場に出る機会を増やす。 ・リレーカーニバルや水泳大会・なわとび大会などの体育的行事を行い、体力の向上を図る。 ・各クラススポーツチャレンジに積極的に参加できるような場の設定をする。	B	・感染症対策の観点から実施できていなかった元気タイムも開催することができた。また、各学級で「みんなで遊ぶ日」を企画したり、晴れた日には教師が外で遊ぶようによびかけをすることができた。 ・雨の日には体育委員会が体育館での遊びを企画し、参加を呼びかけ遊ぶことができていく。 ・リレーカーニバルや水泳大会(水泳記録会)を実施することができた。 ・これから気温が低くなり運動する機会が減っていくと考えられるので、クラスマッチやスポーツチャレンジなどの企画をし、運動する機会を増やしていく予定である。	B	・気温が低くなり運動をする機会が減っていく冬の時期に、クラスマッチやその他の企画を実施した。その結果、運動場に出て遊んだ児童が全体の95%という結果になった。 ・コロナ感染症も落ち着いてきて、リレーカーニバルやクラスマッチなど集団で運動する機会を作ることができた。しかしスポーツテストの結果は県平均と比べて多くの学年や種目で下回っており今後の課題である。	B	・評価は妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症も少しずつ落ち着いてきたので、子供たちには元気に屋外で遊んで、体力を高めてほしい。 ・これからの子供たちの体力を向上させるための機会を増やす工夫をしてほしい。	体育主任 食育担当 養護教諭
	○望ましい生活習慣の形成	○自分から進んであいさつをしている児童の割合80%以上を目指す。	・1年間の生活目標を「あいさつにあふれ、落ち着いたある学校にしよう」とし、「合言葉」の「あかるく・いつでも・さきにつづけて」の周知・徹底を図る。 ・あいさつについて学期ごとの具体的な目標を示す。 ・児童会・PTAが連携した朝のあいさつ運動を展開する。 ・年に2回生活点検を行い、生活習慣の見直しを行う。	B	・挨拶については、1学期に「元気にいつもあいさつをしよう」、2学期に「自分から先にあいさつをしよう」、3学期に「心をこめてあいさつをしよう」という学期ごとの目標を立てた。1年間を通して挨拶の目標を立てたことで、地域の方や職員に挨拶をする児童が増えている。	B	・年間を通して挨拶に関する目標を設定し、生活朝会で全校児童に伝えた。その結果、学期ごとの挨拶の目標を意識して、挨拶を行う児童が増えた。しかし、自分から進んで挨拶する児童はまだ多いとは言えない。 ・コロナ禍でPTAとの挨拶運動が中止になったが、児童会を中心に挨拶運動に取り組んだ結果、期間中はいつもより多くの児童が挨拶を行った。 ・プラスワン挨拶に関しては、浸透し始めているので来年度も継続して指導を行う。	B	・評価は妥当である。 ・子供たちは、地域の中でもよく挨拶をしている。地域の中でも子供たちの態度も良い。 ・子供たちと先生たちの関係がよくなっていくように感じられる。 ・学校と地域との交流を深められる機会が少しずつ増えてきたので嬉しく思っている。	こころ部

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。 ・超過勤務時間が各月平均30時間以内を目指す。	B	・定時退勤18:00を守る日が増えた。 ・超過勤務時間は、月平均30時間に近づいている。	A	・ほとんど定時退勤18:00を守るようになった。 ・超過勤務時間は、月平均30時間を下回る月があった。(12月、1月)	A	・評価は妥当である。 ・先生たちはたくさん業務があると思うが、計画的に業務をこなして夜遅くまで居残りがないようにして、心身共に健康で笑顔で子ども達の指導にあたってもらいたい。	管理職
	○業務の改善、軽減化 ○年次休暇取得の啓発	○職場環境の整備、学校行事の改善をする。 ○各職員の年休取得日数が昨年度+3を目指す。	・勤務の効率化を行うために、職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。 ・休業中の年休取得日数を具体的に示す。	B	・検温カードや欠席連絡等をスマートフォンでの報告にしたり、各種アンケートもスマートフォンやタブレットでの入力、集計にしたりすることで業務の効率化を図っている。 ・夏季休業中の年休取得が多かった。	A	・各指導部で3回の取組を2回に減らすなどの見直しや内容を縮小して業務の改善を行った。 ・2022年の年休取得は、平均15.2日間だった。2021年は平均13.1日間だったので、2日間以上増えた。	A	・評価は妥当である。 ・これまでの行事をすべて行うのではなく、見直しをして削減できるところは思い切って減らしてほしい。 ・忙しいときはなかなか休めないと思うので、休めるときはゆっくり休んでほしい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・保護者や地域の方々の理解を図るために、全学級で年間を通して1回以上、授業参観等を実践する。 ・教科「日本語」の学習内容を学級通信等で知らせる。	B	・教科「日本語」は、年間計画に基づいて計画的に実践できており、授業参観等で実践したクラスは学級通信等でお知らせできている。 ・各学年で教科「日本語」の中で積極的にタブレットを活用することができる。	B	・授業参観で、全てのクラスで教科「日本語」の授業を公開した。 ・保護者に教科「日本語」に関する情報発信を行った割合は70%であった。	B	・評価は妥当である。 ・授業参観で授業公開が行なえたのでよかった。情報発信もできることを工夫して取り組んでほしい。	日本語主任
○主体的な態度の育成	○学級活動や学校行事等子どもの出番・役割の設定 ○学級会を主軸に置く特別活動の取組	○学校行事の準備や計画、進行などを児童にまかせ、できるだけ多く子どもの出番・役割を設定し、主体的な取り組みをしているという児童を90%以上にする。	・代表委員会を通して児童の思いを反映させた取り組みを行う。 ・集会や児童朝会、運動会の進行や準備などで子どもの出番・役割を設定し、主体的に活動に取り組ませる。 ・縦割り班での縦割り活動やあいさつ運動を年間を通して行い、児童に計画・立案・運営させる。 ・常に考える教育を推進し、小集団での話し合い活動を行う。	A	・運動会に向けた代表委員会では、盛り上げるための工夫を出し合い、児童の思いのこもった取り組みを実行することができた。 ・集会活動は図書委員会の図書館まつりや体育委員会の雨の日の体育館遊びなど、各委員会で児童が企画・運営する活動を行うことができる。 ・縦割り班での活動の「元気タイム」では、6年生ができる遊びを計画し、安全に気をつけて活動を行うことができる。 ・運動会では、高学年を中心に準備や当日に児童の役割を設定することができた。	A	・コロナ対応で行事が縮小されたりリモートになったりした中でも児童の出番を工夫して与えた。 ・行事に主体的に関わる経験をすることで、縦割り班の活動でも主体的に動く児童が見られるようになった。 ・保護者へ児童の頑張りを通信等で伝えることができたため、保護者アンケートで主体的な取り組みを学校がしていると感じる保護者が99%に達した。	A	・評価は妥当である。 ・中央渡り廊下の子供たちの掲示物を見ても伸び伸びと進んで活動している様子を感じられ、主体性が育っていることがよく分かる。子供たちの成長のために学校がいろいろな活動を通して体験や経験を積ませていることが分かる。	特活主任
○自己有用感の向上	○学校・家庭・地域一体となって承認・賞賛する開発的な関わり	○自分や友だちのよさに目をむけ、承認・称賛する取り組みを通して自己肯定感を高めていき、保護者アンケートで、承認・称賛することで温かな環境づくりに取り組んでいるという割合を90%以上にする。	・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に学校・地域・家庭で取り組み、本校2階のきらきら通りに掲示すると共に温かな環境づくりに努める。教師の積極的なカードの取組を促す。 ・PTAとの連携を図り、心豊かになる教育講演会を実施する。 ・全学級、ショートで友達の承認・称賛のコーナーを設け、取り組む。	A	・昼の放送で毎日のように「ほめほめカード」の紹介をすることができる。 ・運動会では、保護者に我が子の頑張った姿を「がんばったカード」書いてもらい、掲示することができた。 ・学級で広げたい言葉を決めることで、温かい言葉が学級だけでなく学校全体に広がってきている。	A	・保護者アンケートで「子ども達を称賛・承認する取組を行い、自己肯定感を高めようとしている」との問いに97%の保護者があてはまると回答している。学校での取組が見える形で情報発信ができていえると言える。 ・コロナ感染症のためにPTAの教育講演会など中止する取組も多いが、できることは工夫して行ってきた。	A	・評価は妥当である。 ・先生たちが子供たちのことを当たり前にできたことでも認めて褒めていることで、子供たちもどんどんやる気になって、家庭でもその様子がうかがえていることだろう。これからも継続してほしい。 ・コロナ感染症も取まりつつあるので、PTA等の講演会も検討してほしい。	教務主任

●・・・県共通 ★・・・鳥栖市共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的な取組を参考にしながら、1人1台端末を活用した授業改善を進めて3回の授業公開を行った。教師や児童の1人1台端末のスキルも向上し、授業改善の成果も上がっていると思うので、2年次の研究をさらに深めていく。</li> <li>・いじめが起こりにくい集団づくりに継続して取り組み、いじめの早期発見、早期対応、再発防止を心がけ、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。</li> <li>・児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行うため、積極的・継続的に児童が活躍できる場や機会を増やしていく。また、家庭・地域にも連携を働きかけることで多方面からも承認・称賛を行い、児童の自己肯定感を高めていく。</li> <li>・来年度は特別支援学級は9クラスになる。特別支援学級在籍以外でも、通級教室に通ったり、普通学級で特別な支援を要したりする児童もいる。なお一層の特別支援教育の充実が必要である。そのために保護者の願いに寄り添い、一人一人の教育的なニーズに応じた指導・支援を行っていききたい。</li> <li>・不登校児童への対応は学校の大きな課題である。完全不登校、不登校傾向合わせて8名の児童を不登校として報告している。家庭的な問題や病気など原因は様々であり、特定はできないが、組織的な対応を行い、外部機関とも連携を組んでいる。しかし、すべてが解決には至っていない。改善に向けて継続して学校全体で組織的に取り組んでいきたい。</li> </ul>
----------------	---